



TITLE:

露國ノ定期刊行物ニ就デ(一)

AUTHOR(S):

高倉, 輝

CITATION:

高倉, 輝. 露國ノ定期刊行物ニ就デ(一). 經濟論叢 1917, 5(3): 433-438

ISSUE DATE:

1917-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127257>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第五卷 第三號

大正六年九月一日發行

論說

同盟罷工と和解及仲裁制度(一)……………

法學士

河田 嗣郎

所得稅ニ於ケル所得ノ意義(二)……………

法學博士

神戸 正雄

露西亞主義……………

法學士

米田 庄太郎

飛脚ノ變遷(三)迄……………

法學士

本庄 榮治郎

時事問題

戰後^{ニ於ケル}軍國主義ト民主主義……………

法學博士

戸田 海市

雜錄

あだむ・すみす傳拾遺……………

法學博士

河上 肇

獨逸ノ植民的發展ノ起源……………

文學士

山本 美越乃

露國ノ定期刊行物ニ就テ(一)……………

文學士

高 倉 輝

ゆこ・すけらう民族運動(二)迄……………

文學士

米田 庄太郎

經濟漫錄(三)……………

文學士

瀧本 誠一

しゅもーらゐノ戰後ノ獨逸觀……………

法學士

櫛田 民藏

米國ニ於ケル婦人ノ職業……………

法學博士

河上 肇

臺灣^{ニ於ケル}死亡率及疾病統計……………

文學博士

内田 銀藏

露國ノ定期刊行物ニ就テ(一)

高 倉 輝

今次ノ露西亞ノ大革命ハ有ラユル點ニ亙ツテ在來ノ狀態ヲ完全ニ打破シテ了ツタガ、ソノ中デ直接私共が大影響ヲ被ルノハ出版物取締リノ方針ガガラリ變ツタ事デアル。是マデ露西亞當局ノ出版物取締リト言フノハ随分非常識ヲ極メタモノデ、英國ノ露西亞學者デ有名ナリありあむス氏ノ記スル所ニ依ルト、何デモ同ジ一ツノ文章ノ中デ「社會主義」又ハ「社會主義者」ナドト言フ文字ハ抹殺セラレタガ、「まるくす主義」又ハ「まるくす論者」ノ方ハ平然ト許サレテ居ルナドト言フ奇抜ナ例モ有ツタト言フコトデアル。ソレカラ又カウ言フ話モアル。露西亞デハ外國ノ出版物ガ露西亞ノ國內ヘ這入ル時デモ、或ハマタ自國內ノ出版物ガ外國ヘ出ル場合デモ、自國ニ取ツテ不都合ト檢閲官ガ認メタ部分ハ遠慮ナク抹殺シテ了フ。初メハ眞黒ク塗り消シテ了ツタモノデアルガ、最近ニハ危險ト認メタ所ダケハ

切り取ツテ了フ事ニシタ。革命ノ少シ前頃ニハ日本ヘ來ル露西亞ノ新聞ハ大抵穴だらけニ成ツテ了ツテ居テ讀メル所ハ少シシカ無カツタノデアル。塗り消スノハ片面ダケデ濟ムガ、切り取ルノハ両面トモ駄目ニナルノデ誠ニ閉口スル。所ガ或ル人ガ露西亞ヘ這入ツテ來ル英國ノ新聞ヲ英國ヘ送り返シテソノ抹殺セラレタ部分ヲ查ベテ見ル所ガ、實際危險ダト思ハレル所ハ非常ニ少ナカツタ。ソノ大部分ハ危險デモ何デモ無カツタ。最モ甚シイノハ或ル野球ノ記事ガ立派ニ抹殺セラレテ有ツタト言フコトデアル。コレナドハ檢閲官ノ無識ト非常識ヲ示シタ極端ナ例デアルガ、或ル亞米利加人ノ書イタモノノナカニ、露西亞ノ或ル顯官ガ餘リ盲目判ヲ押スノデ其ノ下僚ガソツトばあてゐるのすてゐる (Pecherowski)ノ新稿文ヲ多クノ文書ノ中ニ挾ンデ置イタ所ガ果シテソレニモ判ヲ押シタト言フコトガ眞實ノコトダト言ツテ書イテアル位デ、カフ言フコトハ在來ノ露西亞ノ政府ニハ全ク少クナカツタノデアル。ソレニ又同ジ露西亞ノ國內デモ

べどろぐらあどともすくわトデ檢閱官ノ手心ガ非常ニ違フナドト言フコトモ有ツタノデアル。現ニ私ナドモもすくわカラ出テ居ル雜誌ノアル號ガ途中デ押ヘラレテ手ニ入ラナカツタガ、前後ノ關係ヤ何カデ是非見タイト思ツタべどろぐらあどニ居ル友人ニ頼ンデ送ツタ貰ツタ所ガ苦モ無ク手ニ這入ツタナドト言フ經驗ガアルノデアル。今後ハ先ヅカウ言フ心配ダケハ有ルマイト思フ。シカシ何分現在ハ新聞雜誌ノ外ニハ主トシテ戰爭ト革命ニ關スル著書ガ出ルキリデ、ソノ他ノ出版界ハ全然絶滅ト言ツタモ良イ様ナ狀態ニナツテ居ルノデ此ノ自由ノ空氣ヲ十分ニ味フコトガ出來スノハ殘念デアル。次ニ少シク露西亞現在ノ新聞雜誌ノ模様ヲ述ベテ見ルコトトスル。

露國ノ新聞ノ模様ハ其ノ中心主義デ有ツテ都會ト地方トノ區別ガハツキリ着イテ居ル點ガ日本ノ新聞界ノ模様ニ酷似シテ居ル。特ニべどろぐらあどともすくわノ二大都會ガ勢力ヲ獨專シテ居テ、而カモ一方ハ政治教育ノ中心デ一方ハ商

工業ノ中心デアル點ハ、全然日本ノ東京ト大阪ノ關係デアル。ソレニ一方ガ官府及ビソノ他ノ政治經濟ノ機關ニ親ミ得ルノ便利ト論說トヲ主トシテ居ルニ反シテ、片方ハ報道ノ神速ヲ主トシテ居ル點マデ日本ノ狀態ニ符合シテ居ルノハ不思議ナ位デアル。總體ニ新聞トシテノ體裁上カラ見テ首都べどろぐらあどノ新聞ヨリモすくわノ新聞ノ方が遙カニ進ンデ居ル。露國デ一番發行部數ノ多イ「るすこえ・すろおを」ハもすくわカラ出テ居ルノデアル。コレニハ無論べどろぐらあどガ餘リニ西方ヘ片寄り過ギテ居ルノニ反シテもすくわハ殆ド露國ノ中心ニ位シテ居ルト言フ地理上ノ便利モ有ルノデ、ゐりあむす氏ナドハ「新聞界ノ中心トシテべどろぐらあどガ政治的ニ利スル所ハコレヲ地理的ニ失ツテ居ル」ト言ツテ居ル。地方ノ新聞ニハ殆ド見ルニ足ルモノガ無いノデアルガ、唯一ツ日本ナラバ奈良トデモ言フ様ナ露西亞ノ古都さいえふカラ出テ居ル「さいえふすかあや・むいつする」(さいえふ思潮)ダケハ、其ノ社説ノ堂々タル點ト電

信電話料ニ多額ノ金ヲ拂ツテ殆ド首都ノ新聞ニ劣ラヌホドナ神速ナ報知ヲスル點デ有名デアル。ソノ他各地方ノ中心ヲナシテ居ル所ノとむすくトカウらぢをすどおくトカ又ハばくちナドト言フ都會ニハソレゾレ其ノ代表的ナ新聞ガ有ルノハ無論デアルガ、何レモ言フニ足ルモノハ無イ。

露西亞ノ新聞デ日本ニ一番良ク知ラレテ居ルノハ「のおをえ・うれえみや」デ有ル。所謂半官半民ノ首都ベとるぐらあどノ新聞デ、千八百七十七年あれきしす・すをおりん氏ノ建ツル所デア「のおをえ・うれえみや」ノ名ハ、「のおをえ」ハ新シキ、「うれみや」ハ時、乃チ「時事新報」ノ意デア。ル。「のおをえ・うれえみや」紙ノ第一ノ特色ハ其ノ機會主義デア。時ニハ其ノ當時ノ大臣攻撃ノ論說ヲ掲ケル事モ有ルケレドモ、常ニ其ノ底ニハ其ノ時々ノ政府ニ對スル同情カ秘ンデ居ルノデア。シカシ「のおをえ・うれみや」紙ハ御用紙デハ無イ。其ノ社論ハ常ニ其ノ當時ノ政府ノ政見ヲ代表シテ居ルトハ決マツテ居ナ

イノデア。ル。ムシロ其ノ時々ノ政府ノ政見ト國民ノ輿論トノ投合ト見ルノガ適當デア。ル。「半官半民」ト言ハレルノハ此ノ故デア。ル。

「のおをえ・うれみや」ガ今日ノ盛ヲ致シタノハ全ク社主すをおりん氏(千九百十二年死去)ノ卓拔ナ手腕ニ依ツテ居ル。一方露語デ「ちのうにく」ト言ハレル官吏階級ノ新聞トシテ政府擁護ノ色ヲ帶ビ乍ラ、同時ニ國民ノ輿論ニ纖細ナ注意ヲ拂ツテ常ニ之ヲ利用シテ行クソノ巧妙ナ兼合ガ其ノ今日アラシメタ第一ノ原因デア。ル。「のおをえ・うれえみや」ノ創刊セラレタ千八百七十七年ト言フ年ハ丁度露土戰爭ノ間デ政府ノ政策モ專ラ國民ノ狂熱的愛國心ノ叫聲ニ左右セラレテ居タ時デアツタ。「のおをえ・うれえみや」ハ此ノ潮流ニ乗ツテ一躍露西亞第一ノ新聞トナツテ了ツタノデ、以來長ク國民主義汎すらう主義ノ政策ヲ保持シテ來タノデア。ル。然ルニ露土戰爭ガ終ルト言フト國民ノ輿論ハ急ニ自由主義ニ傾イテ國內ノ異人種壓迫ニ對スル攻撃ガ盛ンニナツタ。此ノ間ガ「のおをえ・うれえみや」ノ蟄服

期デ、賢明ナすをおりん氏ハ此ノ間ニ記事及ビ報道ノ設備ヲスツカリ完全ニシテ了ツタ。ソシテソノ中ニ日露戦争ガ初マツテ自由主義ノ輿論ガ極點ニ達スルト、「のおをえ・うれえみや」紙ハ徐ムロニ自由ノ色ヲ帶ビテ來テ巧ミニ此ノ潮流ヲ操ツタノデアル。

すをおりん氏ハ元農夫ノ出デアルガ、一風變ツタ人デ特ニ自己ノ周圍ニ卓レタ記者ヲ集メル點ニ於テ特別ノ手腕ヲ持ツテ居タ。ソノ他ニ藝術ノ鑑賞者トシテ立派ナ見識ヲ持ツテ居タ人デ、特ニ劇ノ方面ニ於テハ全クノ専門家デベとるぐらあどニ自分ノ劇場モ持ツテ居タ位デアル「のおをえ・うれえみや」ノ寄書家ノ中ニ特別ニ有名ナ二人ノ記者ガアル。めんしこふ氏及ビわしりい・らざのふ氏デアル。前者ハ精力絶倫ヲ以テ有名デ千九百年ニ週刊ヲ出シタ時ニハ氏ガ眞向カラとるすとい主義ヲ振リカザシテ其ノ編輯ニ當ツテ大イニ鳴ラシタモノデアツタ。わしりい・らざのふ氏ノ輕快デ魅力ノアル筆致ハ露西亞新聞界獨步デアツテ、露西亞人ハ「毛髮

ノサキマデ露西亞魂ノ人」トシテ珍重シテ居ル。最モ歴史ノ古イ新聞ハもすくわノ「るすきあ・ゑどもすち」(露西亞新聞)デアル。「るすきあ・ゑどもすち」ノ創刊セラレタノハ千八百六十一年即チ露西亞ノ歴史上デ最モ光彩ノ放ツテ居ル所ノあれくさんどる二世ガ農奴ノ解放ヲ斷行シタ年デアル。以來ズツト自由黨ノ味方トシテ不屈不撓ニソノ主張ヲ貫ク爲ニ戦ツテ來テ、所謂「六十年代ノ自由黨」ノ精神ヲ持續シテ居ルノデアル。

「るすきあ・ゑどもすち」ヲシテ重カラシメテ居ル最モ重大ナ特色ハ常ニもすくわ大學ト特別ニ密接ナ接觸ヲ保ツテ居ルコトデアル。從來ノ主筆中名聲ノ高カツタさばりえふすきい氏、ちゆぶろうふ氏、ばすにこおふ氏、あぬうちん氏ハ何レモもすくわ大學ノ教授デ有ツタ。ソノ他各種ノ教授ガ常ニ其ノ專攻ノ問題ニ關シテ筆ヲ振ツテ居ルノデアル。現今デモヤハリもすくわ大學ノ教授デアル獨逸出ノきいせゑつたあ氏及ビかこおしゆきん氏ガ編輯局ニ巾ヲ利カシテ居

ルノデアル。

「るすきあゝどもすち」ノ第一ノ特色ハ其ノ報道ノ迅速ナル點デ、コレハ露西亞ノ新聞界ニ其ノ比ヲ見ナイ。ソレカラ此ノ新聞紙ノ大功ハ千九百五年ノ憲法發布當時ニナシタ貢獻デスレハ露西亞ノ歷史上ニ特筆ス可キモノデアル。サウ言フ關係カラ一時ハ立憲民主黨トノ接觸ガ甚ダ深クテ其ノ機關紙デアルカノ觀ガ有ツタガ、シカシ今デハ全ク獨立ノ位置ヲ占メテ居テ何ノ黨派トモ特別ノ關係ヲ持ツテ居ナイ。

立憲民主黨ノ機關紙ハ「れえち」紙デアルガ、コレハ立憲民主黨ノ機關紙ト言フヨリモムシロソノ主領デアル所ノみりゆこふ氏ノ機關紙デアアル。「れえち」紙ガベとるぐらあぞデ創刊セラレタノハ千九百六年デ、下院ガ開カレル僅カ前ノ事デアアル。ソシテ第一議會ノ際ニハ在野黨ト結ンデ盛ンニ侃々ノ議ヲ鳴ラシタモノデ、其ノ創刊者ハ第一議會ノ議員トシテ名聲ヲ走セタむすつをお主領ベとるんけぬつち氏トなばこふ氏デアツタ。主トシテ編輯ノ局ニ當ツテ居ルノハ

じよせふ・へつせん氏デアルガ、政策ハ一ニみりゆこふ氏ノ方寸カラ割リ出サレルノデ、ソノ社説モみりゆこふ氏自身ガ筆ヲ取ル場合ガ多イノデアル。殊ニ近東政策ニ關スル氏ノ意見ハ無類ノ稱ガ有ツタモノデアル。

もすくわノ「るすこえ・すろおを」ガ最モ發行部數ノ多イ新聞デアルコトハ前ニ言ツタガ、ソノ創刊ハ千九百年デすいちんト言フ無名ノ一青年ノ手デ企テラレタモノデアル。一躍今日ノ大成スニ至ツタノハ日露戰爭當時デ、ソレハ一ニねみろおぬつち・だんちえんこ氏ノ通信ノ功デアアル。だんちえんこ氏は日本ニモ來タコトノ有ル人デ、ソノ戰時記者及ビ小説家トシテノ名聲ハ夙ニ傳ヘラレテ居タ。初メテソノ名ヲ成シタノハ露土戰爭ノ時デ、次イデばるかん戰役ノ折ニ益々其ノ名聲ヲ高クシテ、遂ニ戰時通信者トシテ肩ヲ並ベル者ナキニ至ツタ。ソノ他ニ今一人「るすこえ・すろおを」ノ名ヲ重カラシメテ居ル記者ガアル。ソレハうらす・だらしえぬつちト言ツテ寸鐵式ノ短評ニ於テ無類ノ名ガアル。

「るすこえ・するおを」ハ主義トシテハ不偏不黨デアルガ、コレマデ人氣吸集ノ策トシテ政府攻撃ノ立場ニ立ツコトガ多カッタノデアル。色々ノ點ガ此ノ「るすこえ・するおを」ニ良ク似ル新聞ガアル。ソレハべとろぐらあどノびるせえゐあ・ゑどもすち」(取引新聞)デアル。ソノ不偏不黨ヲ標榜シテ常ニ政府攻撃ノ立場ニ立ツ點モ、寸鐵式ノ短評ヲ主トシテ居ル點モ「るすこえ・するおを」ニソノママデアルガ、ソノ地方版ハ地方ノ牧師及ビ教師等ニ廣ク讀マレテ居ルノデアル。

ソレカラ一種特別ノ地位ヲ露西亞ノ新聞界ニ占メテ居ルノハ右黨ノ新聞デアル。一般ニ保守黨新聞ノ名デ呼バレテ居ル。初メコノ派ノ新聞トシテ「もすこふすきあ・ゑどもすち」(もすくわ新聞)ガ有ツタ。所謂「六十年代」ニハ主筆かとおふ氏ノ疎腕ニ依ツテすらをふる思想ノ唯一ノ解釋者トシテ大イニ威ヲ振ツタモノデアツタガ、ソノ後ノ主筆ニ卓レタ人ガ無カツタ爲ニ間モナク衰ヘテ了マツタ。

次ノ右黨ノ機關紙「ぐらじゆだゐにん」(平民)ガべとろぐらあどニ創刊セラレタソノ千八百七十二年デ社長ハめしゆちえるすきい公デアツタ。初メハ温和ナ保守主義デアツタガ九十年代ニナツテ次第ニ過激ナ革新反對ノ色ヲ深ウシタ。ココニ不思議ナコトハ此ノ「ぐらじゆだゐにん」ノ創刊期ノ編輯局ニハ近世第一ノ大小説家だすたいえふすきいガ居タコトデアル。ソノ「作家ノ日記」ハソノ頃ノ紙上ニ連載セラレタノデアル。ソノ他ニ退職士官かまろおふ氏ニ依ツテ發刊セラレテ居ルべとろぐらあど「すゑえと」(世界)紙モ同ジク右黨ノ機關紙デアル。

コノ種ノ新聞ノ中ニ最モ激烈デ突飛ナ、露西亞デナクテハトモ見ルコトノ出來ヌ奇拔ナ新聞ガ一ツアル。ソレハ「るすこえ・すなあみあ」(露國旗)デアル。此ノ新聞ハソノ記事モ論說モ全ク體ヲ成シテ居ナイ。唯ダ徹頭徹尾猛烈ナ痛罵ヲ之コトトシテ居ル。ソノ攻撃ノ對象トナルモノハ何カト言フト、先ヅ第一ニ猶太人、ソレカラ革命黨、自由黨、波蘭人及ビソノ他ノ純粹露

西亞人ナラザル人種、ソノ他アル時ニハ時ノ大臣或ハ内閣ヲ向ウニ廻シテ常ニ毒舌ヲ振ツテ居ル。「るすこえ・すなあみあ」ハ持主ハ元ノ議員デアツタぶりしゆけえゐつち氏デアル。氏ノ持つテ居ル新聞ハ此ノ他ニモ「からこおる」(鍾)及ビ「せむしちいな」(國民ノ聲)ガアルガ、共ニ見ルニ足りナイ。「からこおる」ハ例ノ有名ナヘるつえんガ英國デ出シテ居タノト同名デアルガ、シカシ全然縁ハ無イノデアル。

週間新聞トシテ重キヲ來シテ居ルモノハ露西亞ニハナイ。シカシ「のおをおえ・うれえみや」ヤ「るすこえ・するおを」ノ様ナ大新聞ハヤハリ英佛獨ト同ジク週刊ノ繪入附録ヲ出シテ居ル。最モ有名ナノハ其ノ搜繪ノ諷刺畫デ、諷刺畫デハ今露西亞ハ世界一ノ稱ガアルノデアル。

唯ダ此ノ週刊ノ中デーツ記憶ス可キモノガアル。ソレハ「にいわ」紙デアル。「にいわ」ト言フノハ畑ノ意味デ精神のナ頭腦ノ畑ヲ以テ任ジテ居ルノデアル。丁度日本ノ「中央公論」ノヤウナ雜誌デ、其ノ記事ニハ大シテ見ルニ足ルモノハ

ナイノデアルガ唯ダソレニ伴フ文藝附録ガ甚ダ有名デアル。とるすとい伯ノ「復活」ナドモ初メハ此ノ紙上ニ出タノデ、其ノ他常ニ文壇ノ大家ヲ此處ニ集メテ居ル。ソノ他ニ又「にいわ」社ハ多クノ大家ノ全集ノ版權ヲ買ヒ受ケテ自分ノ社カラ發行シテ居ルガコレガ亦非常ニ便利デアル。又ソレガ爲ニ「にいわ」ハ莫大ノ利益ヲモ得テ居ルノデ、現ニちええほふノ全集ノ版權ヲ著者ガ生存中ニ二万るうぶるバカリデ買ヒ受ケタ所ガ、著者ノ死後ニワカニソノ賣行ガ増シテ千九百十一年マデニ二十七萬部ヲ賣リ切ツタナドト言フコトモ有ツタノデアル。